

長野県松本市島立（町区）方言における 身体感覚を表すオノマトペ

沖 裕子

はじめに

1. 調査対象地：松本市中心部から国道158号線で約5キロほど西に行ったところ。安曇平へと続くひろがりのある平らな土地にある。数年前、長野自動車道のインターチェンジが、集落の東約1キロほどのところに開通し、158号線は松本市内へのアクセス道路として使われるようになった。旧町名は東筑摩郡島立村町区。昭和29年に合併して、現在は松本市島立となった。まとまりのある農業集落。現在106戸。以前は、全戸が米作農家であったが、現在は専業農家が4割ほど。あとは兼業農家である。松本駅から、松本電鉄上高地線が1時間に1本（ないし、2本）走っている。それで10分ほど。
2. 調査年月日：1992年1月16日 午後1時35分～2時45分
3. 話者：亀井規素子氏 昭和5年2月18日生(61歳)
移動歴なし。数代前からの造り酒屋である亀田家に生まれ、育った。
同席者：竹本祐子氏 昭和29年生(37歳)。話者の息女で、現在亀田屋を手伝っている。0～18歳・27歳～現在、長野県松本市。18歳～27歳まで東京都。その間アメリカ合衆国、松本市に各1年。
4. 調査者・調査場所：沖 裕子。話者自宅。
5. 調査方法：質問法によった。
6. 調査結果の提示：原則として亀井氏の回答、または亀井氏に確認を得られた回答を示す。当地の語例<説明>・調査文・調査票見出し語という順序で記す。共通調査文は○の後に続ける。「+○」に続けカナ表記で書いたものはその場で得られた文例である。ここであげたひらがなの見出し語は共通調査票につけられている語をそのままあげてあるので、必ずしも語例と合致しないものもある。新たに得られた文例につけた調査見出し語には+をつけておく。

I 全身の感覚

1-1 快不快

セーセー

○汗をかいたが、風呂に入って（ ）した。

さっぱり

1-2 寒さ

ガタガタ

○寒くて寒くて（ ）震える。

がたがた

ブルブル	○寒くて寒くて()震える。	ぶるぶる
ゾクゾク	○風邪でもひいたのかな。()する。	ぞくぞく
ゾモゾモ	○風邪をひいたみたいだ。背中が()する。	ずうずう

1-3 熱さ

ポカポカ	○酒を飲んだら身体が()してきた。	ぽかぽか
_____	○卵酒を飲んだら身体が()してきた。	かっか
ポツポツ	<顔がほてる時> _____	
	+○()シチャック。	+ぼうっと

II 皮膚の感覚

ヒリヒリ, ビリビリ	<焼けすぎた場合>	
_____	○海水浴で日焼けして背中が()する。	ひりひり
べとべと	○今日は暑い。汗で背中が()する。	べたべた
ムズムズ	○背中に何か入って()する。	むずむず
モゾモゾ	○背中に何か入って()する。	もぞもぞ
カサカサ	○空気が乾燥していて、肌が()する。	かさかさ
ガサガサ	<荒れがひどい場合。>	
_____	○空気が乾燥していて、肌が()する。	がさがさ
スベスベ	_____ ○温泉に浸かって肌が()する。	すべすべ
ツルツル, スルスル		
_____	○温泉に浸かって肌が()する。	つるつる
ズキズキ	○切り傷が()痛い。	ずきずき
_____	_____ ○ころんで強く打ったところが()する。	
ヒリヒリ, ビリビリ		
_____	_____ ○擦り傷が()痛い。	ひりひり
ビリビリ, ズキズキ	<水ぶくれなどしている時>	
_____	○やけどしたところが()する。	ひりひり
ズキズキ	○できものが腫れてきた。()する。	ずきんずきん
ズキンズキン	○できものが膿んできた。()する。	ぼとぼと
ジクジク	<ただしこれは、 <u>痛み</u> というより、 <u>傷口</u> の様子を指す。>	
	+○キズグチが()スル。	+じくじく

III 頭部の感覚

3-1 頭

ガンガン	<ガンガンシテルと言う>	
_____	○熱があって頭の奥が()する。	がんがん
ズキズキ	○熱で頭が()する。	くらくら

○二日酔いで頭が()する。

ずきずき

3-2 顔面

ポッポト

○恥ずかしくて顔が()する。

かっか

ぼっと

3-3 目

チカチカ<ふつうにまぶしい>, チャカチャカ<たいへんまぶしい>

+○マブシクテ、()スル。

+ちかちか

ショボショボ, ショボショボ<多>

○テレビを見すぎて、目が()する。

ちかちか

○煙くて目が()する。

しょぼしょぼ

ゴロゴロ

○目にゴミが入って、()する。

ごろごろ

3-4 耳

ジンジン

○あうるさい。耳がまだ()する。

きーんと

ジーン

○あうるさい。耳がまだ()とする。

じーん

ズキズキ<痛み>, ジクジク<膿んで水気が含まれている時言う>

○耳の中が腫れて汁が出ているようだ。()する。

じくじく

3-5 鼻

ムズムズ

○くしゃみが出そうで、鼻が()する。

むずむず

グズグズ, グジュグジュ

○風邪をひいたようだ。鼻が()する。

ぐじゅぐじゅ

ツーント<多>, ツンツン

○わさびを入れすぎて鼻が()する。

つーんと

3-6 口

[口全体]

ネバネバ<特には言わない>

○納豆は嫌いだ。口が()する。

ねちゃねちゃ

該当語無

* ○梅干しを丸ごと食べると、口が()する。

* ○あんまり甘いものを食べたから口が()する。

[歯]

ガチガチ, ガクガク<ひどい場合>

○寒かった。歯が()鳴っている。

がちがち

かちかち

ズキズキ, ズキンズキン<強い痛み>

○虫歯がひどくなって、歯が()する。

ずきずき

ちくちく

ちくちく

[舌] _____

ヒリヒリ ○辛いカレーを食べたら舌が()する。 ひりひり
びりびり

3-7 喉 _____

カラカラ ○水をくれ。喉が()だ。 からから
該当語無<荀がエゴイと言う>

_____ ○あくの抜けていない荀を食べて、喉が()する。 いがいが
カラカラシチャッタ

_____ ○この部屋は空気が悪い。喉が()。 いがいが
ゼーゼー<①では言わない。②のような場合>

①息が苦しい。()いている。 ぜいぜい

_____ ひゅうひゅう
+②アノヒト ゼンソクデ()イッテル。

IV 胴体の感覚

4-1 肩 _____

コチコチ<多>, カチカチ, カチンカチン<三例ともサ変では使用
せず、②③のように使う>

①肩が凝って()する。 こりこり

+②カタが、()。 _

+③カタ、()ニ ナッチャッタ。

4-2 胸 _____

ドキドキ ○ああ恐ろしかった。まだ胸が()する。 どきどき
どきんどきん
どっきんどっきん
とくんとくん
_____ とっくんとっくん

該当語無<悲しい時はわざわざ言わない。あえて言えばキリキリか>

_____ ○悲しくて悲しくて胸が()しめつけられる。 きゅっと

ムカムカ ○悪いものを食べたようで、胸が()する。 むかむか

4-3 腹 _____

[空腹] _____

グーグー<キュルキュルとは言わない>

○お腹がすいて()いう。 ぐうぐう

きゅるきゅる

【満腹】

ブクブク<軽い>、ガボガボ<沢山飲みすぎた場合>

○麦茶を飲み過ぎてお腹が()する。

たぶたぶ
ちゃぼちゃぼ
ちゃぶちゃぶ

パンパンスル、ボンボンニナッタ

○食べ過ぎた。腹が()。

ばんばんだ

【腹下し】

ゴロゴロ<下痢気味>、シクシク<痛みを伴い下痢しそうな時>

○何か変なものを食べたようだ。腹が()する。

ごろごろ
ぐるぐる

ゴロゴロ、

ビービー<ただしサ変では用いない。②のみ>

①下痢気味だ。腹が()する。

びーびー

+②オナカ()ダ。

4-4 胃

シワシワ<鈍痛で少しの痛み。胃痛は背中も痛いため、セナカガ>

シワシワスルとも言う>

○困ったことが多くて(ストレスがたまって)、

しくしく
じくじく

胃が()痛む。

キリキリ<さしこみ>

○困ったことが多くて(ストレスがたまって)、

きりきり

胃が()痛む。

ムカムカスル<胸焼け、吐きっぽい時>

+むかむか

4-5 尻

ムズムズ、モゾモゾ

○居心地が悪い。尻が()する。

むずむず
もぞもぞ

V 手足の感覚

【手】

ブルブル

○手が()震えて、箸が握めない。

ふるふる

【足】

ガクガク、テクンテクン<歩きすぎて力が入らず、だるい感じ>

○歩きすぎて、足が()する。

がくがく

モコモコスル・ボンボンフクランダ<足が疲れてむくんだ時>

— — ○歩きすぎて、足が（ ）。

ビリビリ、ジンジンくなおってくる頃の足があげにくいような痛み>

+○シビレが キレテ（ ）スル。 + (びりびり)

【その他】

ヌルヌル、グチャグチャ、グニャグニャ、フニャフニャ

○気持ち悪い。（ ）したものが足(手)にあたった。 めるめる
ぬらっと

VI 関節(骨)の感覚

ゴキゴキ ○寝違えて首が（ ）する。 ごきごき
ぐきぐき

— —

+○カタガ()スル。

ボキボキ +○ユビオ()ナラス。 +ぼきぼき

カクカク +○ホネガ()スル。 + ()

まとめ

1. 共通語と同形の語が多いが、その中に特有語が若干みられる(背中に何か入ってゾモゾモする、胃がシワシワする等)。
2. 四拍からなる疊語のアクセントは、共通語の場合頭高型が多い。60歳代の亀井氏は、共通語で頭高の語は頭高で答えることが多いが、中に平板型の語が混じる(ヒリヒリ、キリキリなど)。娘の竹本氏は共通語頭高の語を平板型で答えることが多い。
3. 調査者は松本市旧市内で言語形成期を過ごしているが、当地とは若干の違いがある。今後、微細な分布調査が望まれる。

(おき ひろこ 花園大学文学部)